



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

平成19年度 卒業式, 学位記授与式 開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る3月12日(水)午前10時から、大崎広小路の「ゆうぼうと」において平成19年度昭和大学卒業式が執り行われました。歯学部からは第26回生85名が卒業しました。式は昭和大学管弦楽団の演奏のもと厳粛に開会し、細山田学長から各学部の総代に卒業証書・学位記が授与されました。学長告辞と小口理事長の祝辞に引き続き、各賞の表彰が行われました。歯学部では上條賞を相澤 怜君, 同窓会賞を八木奈々香さん, 高橋正皓君, 原田奈奈さん, 上條旗ヶ岡賞を戸田剛史君(弓道部)が受賞しました。四ノ宮父兄会長から卒業生に記念品が贈呈されました。卒業生代表謝辞のあと、校歌斉唱と今年初めての企画である応援指導部による卒業生へのエールがあり、式場内が一気に盛り上がり11時15分に閉会しました。



引き続き、各学部に分かれ、歯学部は旗の台校舎の1号館7階講堂で午後12時半から、多数のご父母のご参列のもと学位記授与式を執り行いました。立川学生部長の開会の辞で始まり、宮崎学部長、榎歯科病院副院長、飯島同窓会長の挨拶のあと卒業生全員に学位記が授与されました。恒例の学生表彰の受賞者は以下の通りです。歯科医学生賞: 坂田健一郎, 高橋那奈, 方山光朱, デンツプライ賞: 武井美咲, 遠藤寛子, ハノーバー賞: 海上紗耶香(敬称略)。卒業生代表の方山君から記念品として携帯AEDが贈呈されました。在校生から記念品と花束が贈呈され、和やかな雰囲気の中に、佐藤教育委員長の閉会の辞で終了しました。

学部長挨拶の要旨は以下のとおりです。26回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは新しいカリキュラムの最初の卒業生になります。卒業はゴールではなく、医療人としてのスタートです。

皆さんは昭和大学の6年間で、これから生涯歯科医師として活躍できる期間、おそらくこれから最低でも40年間社会で責任を持って活躍できるようにその基礎固めを学習しました。学問や技術の進歩により、大学で学んだ知識は遅かれ役に立たなくなります。皆さんは、PBLを通じて生涯に亘り問題を発見、解決し、学び続けることの重要性和と学ぶ力を身につけました。新しい知識を自ら積極的に学んで下さい。逆にいつの世でも変わらないのは、社会や患者との信頼関係です。皆さんは社会と歯科医療コースを始め、学部外の実習を通じて、社会や他の医療職、患者とのコミュニケーションの重要性和と謙虚に学ぶ態度を身につけました。昭和大学歯学部では社会性を有しチーム医療のできる歯科医師が目標です。そして建学の精神である「至誠一貫」、すなわち真心をもって患者に尽くす医療人が最終目標です。歯科医療を通じて、患者の命を救い、命の尊厳を保ち、健康を回復し、超高齢社会の長寿健康に貢献して欲しいと思います。皆さんが昭和大学で学んだことにプライドをもって、これから社会で活躍することを期待しています。



行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 3月31日(月): 新5年生登院式
- 4月 1日(火): 歯学部2, 3, 4, 6年生進級式
- 4月 5日(土): 昭和大学大学院入学式
- 4月11日(金): 昭和大学入学式
- 4月12日(土): 新入生入寮式・オリエンテーション
- 5月24日(土): 昭和大学旗の台(春季)公開講座

平成19年度歯学部謝恩会

歯科補綴学教室 馬場 一美

昭和大学歯学部第26期生の謝恩会が、平成20年3月12日(水)にホテルオークラのアスコットホールで開催されました。当日は卒業式、学位記授与式が行われた後、昭和大学卒業生をはじめ御父兄や大学関係者が大勢参集し、盛大な会となりました。

卒業生と御父兄の拍手と歓声に迎えられ、スポットライトの中、講師、准教授、名誉教授、教授と1人ずつ入場して会は始まりました。小口理事長からの“昭和大学を日本一に”という力強いご挨拶に続き、宮崎歯学部長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。

来賓の方々からの祝辞に続き、名誉教授、客員教授、教授の各先生に対して卒業生から花束贈呈があり、恒例となったランキングでは、「授業のわかりやすい先生」の1位に小児成育歯科の島田先生が、「熱意のある先生」には歯科薬理の天野先生、「ひげの似合う先生」には高齢者歯科の佐藤先生、「学生おもしろい先生」には口腔生化学の上條先生が、「父親になってほしい先生」には歯科麻酔の吉村先生が、「白衣の似合う先生」には口腔外科の羽鳥先生がそれぞれ選ばれ拍手喝采の中で表彰されました。会場での記念撮影の後、会はお開きになりましたが、その夜は卒業生のみならず、多くの教員の先生方も学生以上に、教え子の巣立ちを祝い、遅くまで祝杯をあげられたとのことです。

卒業生の皆様におかれましては、昭和大学歯学部を卒業したことを誇りとして、今後、歯科医師としてさらに充実した人生を送られる様、心より祈念いたします。

外国人研修生修了書授与式開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る3月18日(火)午後5時半から大学病院入院棟17階タワーレストラン昭和において、平成19年度昭和大学外国人



研修生の修了書授与式が執り行われました。今回が初めての試みで、本間生夫国際交流センター長の開式の辞に始まり、細山田学長から13名の研修生一人一人に修了書が授与されました。

学長から、昭和大学は国際協力に益々力を入れているので是非昭和大学での経験を生かして本国に帰国後も交流を続けて欲しいと挨拶がありました。

引き続き、懇親会を開催し、各学部長や指導教員を交えて歓談の時間を過ごしました。各研修生の自己紹介と挨拶のあと、研修生を代表して口腔病理学教室で研修中のモハマド・サダト先生(バングラデシュ)から感謝の挨拶がありました。サダト先生は立川教授の指導のもと遺伝子を利用した新しい口腔癌診断の研究に従事しました。今年度は歯学部からモハマド先生のほかに、歯科放射線学教室でネパール出身のメンカ・シャヒ先生が岡野教授の下で最新の画像診断を研修しました。研修生の活躍をPRするために、研修成果について、各大使館に報告することも始めています。先生方の今後益々のご活躍を祈念いたします。

選抜Ⅱ期・センター入試 結果報告

口腔生理学教室 井上 富雄

選抜Ⅱ期入試が、例年より約1週間遅い3月15日(土)に7号館で実施されました。当日は晴れの暖かい天候に恵まれ、交通等の乱れもありませんでした。前年度までは、英語か数学のいずれかと理科(物理、化学、生物から1科目選択)の合計2科目と小論文が試験科目でしたが、今年度から、英語、数学および理科の合計3科目と小論文が試験科目となりました。

I期入試と同様に集団面接も行われました。8名の募集に対して92名(11.5倍)の志願者がありましたが、昨年よりも74名減少しました。合格発表は3月19日に行われ、8名(男子6名、女子2名)が合格しました。以上をもちまして、平成20年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。



試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H19.10.29 ~ 11.6	H19.11.11(日)	H19.11.13(火)
編入	若干名	H19.10.29 ~ 11.6	H19.11.11(日)	H19.11.13(火)
センター	10名	H.1.4~1.23	H20.1.19(土), H20.1.20(日), H20.1.(日)	H20.2.7(木)
選抜Ⅰ期	55名	H19.12.25~ H20.1.23	H20.1.27(日)	H20.1.30(水)
選抜Ⅱ期	8名	H20.2.25~3.10	H20.3.15(日)	H20.3.19(水)

D4共用試験OSCE実施報告

OSCE委員会 委員長 長谷川篤司

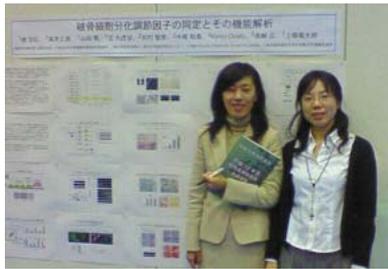
2月23日(土)に歯学部第4学年を対象とする共用試験OSCEが歯科病院にて実施されました。今回の参加・協力者は219名(教員152名, 職員7名, SP42名, 学外評価者18名)にのぼり, 歯科病院を休院にして歯科病院教員と基礎講座教員, そして職員とSP(標準模擬患者)の協力を得ての実施となりました。実施準備はOSCE委員会が担当し, 6課題(面接系1, 説明系1, 技能系4)を3フロアに2課題ずつ配置しました。当日は101名の受験者に遅刻, 欠席者は一切無く, 全員上下白で統一された白衣で受験しました。学外評価者からは, 身だしなみや態度を高く評価していただきました。

歯科病院での診療参加型臨床実習を実現するために, 多くの教職員が厳粛公正に試験を実施して臨床実習生としての資質を確認いたしました。

昭和大学共同研究 平成19年度研究成果発表会

口腔生化学教室 高見 正道

平成19年度の昭和大学共同研究の発表会が3月1日に開催されました。この共同研究は平成17年度から始まり, 「生活習慣病の危険因子の



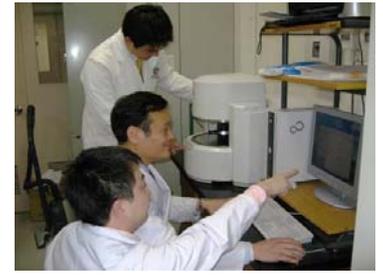
解明と治療」, 「高次脳機能の解明とその障害に関する研究」, 「生体材料と代替医療の開発」, 「メタボローム解析による難治性疾患治療法の基礎基盤構築」の5課題に分かれ, 学部横断的な研究推進を1つの目的としています。歯学部からは, 口腔生理学, 口腔生化学, 口腔病理学, 歯科理工学, 齲蝕・歯内治療学, 歯周病学, 顎口腔疾患制御外科学, 歯科矯正学, および高齢化歯科学の各研究室がこの1年間の研究成果を発表しました。

午前中に開催された研究代表者による総括発表のあと, 50年記念館にて研究分担者によるパネル討論会がおこなわれました。私は, 歯学部以外の学部ではどのような研究がおこなわれているかよく知りませんが, 今回の共同研究発表会を通じ他学部の研究者と交流し, 新しい研究内容や手法を学ぶとともに, 昭和大学の研究レベルの高さを感じました。また, 閉会の際に細山田学長が, この共同研究の資金の半分は税金であると述べられ, 私達の研究が国民にとって有益でなければならないことを, あらためて意識させられました。本共同研究は, 昭和大学の研究を促進するという点においても極めて重要な意義を持つと思います。

天津医科大学との交流

歯科理工学教室 堀田 康弘

天津医科大学口腔医学院と本歯学部は2004年に正式に交流プログラムを締結して以来, 研究や研修に関するさまざまな交流を続けています。一昨年, 同大学



歯周病学教室助教授の鄧先生が1年間外国人研修生として留学していたのも, まだ記憶に新しいことと思います(歯学部だより2006年8月号参照)。今回, 2月14日から3月5日までの3週間に亘り, 同大学口腔医学院院長(学部長・病院長)の高教授が, 共同研究遂行のため歯科理工学教室に滞在しました。

高先生は, 1989年に当時の本歯学部第一歯科補綴学教室で川和教授の指導のもとで1年間研修をした実績があります。また, 本学以外でも, 1996年に中国の国費留学生として大阪大学歯学部歯科補綴学第一教室で研究に従事したことがあるため, 日本語でのコミュニケーションも何不自由なくできます。今回は3週間という短い期間ではありましたが, 歯科理工学教室の藤島講師とともに支台築造用ファイバーポストの物性に関する様々な実験を行いました。また, 大学院生や学部学生達とも交流を深め, 特に, 間に迫っていた新6年生の選択実習についても4名の学生を快く引き受けていただくことができました。今後は, 学部学生の教育においても, 更に交流が深まっていくことを期待しています。



診療統計(平成19年2月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,786	729.8	730.3	769.6
入院患者	385	13.3	10.7	11.4

教室紹介 小児成育歯科学教室

小児成育歯科学教室 井上 美津子

歯学部開設時より続く当教室は佐々龍二教授の後任として、平成18年6月より井上が担当させていただいております。少子化、核家族化が進むなかで、子育てが以前より困難となり、サポート体制の充実が求められている昨今、小児歯科もお子様ご本人のみならず、親・兄弟を含めたファミリー単位でのサポートを提供するよう心がけております。また、大学病院の小児歯科として、全身疾患や障害のある小児に対しては全身管理や全身麻酔下治療等を含めて歯科麻酔科を中心として連携を図って診療に当たっております。最近増加しているアレルギーのある小児の診療に際しては、医学部小児科と連携を図り、アレルギー検査を積極的に導入し、より安全性を迫及した対応をいたしております。

研究面では、従来より継続して行っている口唇口蓋裂児や障害児に関する研究や小児の摂食、口腔習癖、構音などの臨床的研究のほかにも歯科薬理学教室、口腔病理学教室、口腔微生物学教室、口腔解剖学教室、口腔生化学教室などの教室と共同で基礎的な研究も行っており、将来にわたる小児の歯科診療に少しでも還元し、貢献できるように教室をあげて取り組んでおります。

子どもの心と身体健康支援を口腔内から実践し、健やかな成育にできる限り寄与できるよう、これからも教職員一同励んでまいります。



留学生紹介

歯科放射線科 Dr. Menka Shahi

Shahi 先生は2002年にインドの Dhaka にある Pioneer Dental College and Hospital を卒業後、Dhaka で1年の研修を終え、現在はネパールのカトマンズにある Kantipur Dental Hospital に勤務されています。昨年4月にネパールからの留学生第1号として来日され、1年間の研修を終了されました。研修期間中は、CT検査やコーンビームCTなどの画像診断に携わり、

デジタル装置による隣接面齶蝕診断や頸静脈の石灰化をパノラマエックス線写真で評価する研究にも加わられました。(歯科放射線学教室 松田幸子)

I am Dr. Menka Shahi from Nepal. I got this opportunity as research fellow to join Showa University, School of Dentistry in Oral Radiology department for one year. Time flies very fast and its time for me to go back. It had been a great chance for me to be here under Professor Tomohiro Okano and other Doctors to learn more about these highly developed techniques because in underdeveloped countries like us we have very less facilities to do a kind of diagnosis with precision. It was really a nice experience and a good chance for me to learn something very new which I can apply in my hospital with better knowledge. I really want to thank my professor for his positive mind of taking me in his department. Every member in oral radiology department is very kind and helpful and never hesitates to answer my questions. Especially I want to thank Dr. Matsuda who not only help me in my work and other activities but make me familiar with the cultures and life styles of Japan. I would encourage anyone who has such chance to study abroad to accept the challenge and new experience. I look forward to visit Japan again in some point in my career as a dentist.



編集後記

口腔組織学教室 馬谷原 光織

新年度にむけ、教員のみならず、学部生、新入学生もそれぞれの思いで3月をすごされたのではないかと思います。我々は新しいことを始める時、期待と不安が混在した不思議な気持ちになります。生物の進化過程において、壮大な地球環境の変化は、適応できない種を淘汰してきました。変化への不安を持つことは自然なことのように見えます。今日、我々は淘汰を乗り越える知能を授かりました。変化への不安ばかりではなく、新たな変化に期待できるのも、その知能の恩恵といえるかもしれません。最後になりましたが、年度末のお忙しい時期に、原稿の執筆をして下さった先生方に感謝いたします。